

令和4年度 自己点検・自己評価

学校法人東北柔専

仙台接骨医療専門学校

1. 学校の教育理念・教育目標

「自分に厳しく、人に優しく」

柔道整復師としての基本は柔道の精神にあります。本校では精神鍛錬のための五省を唱えている。

「東北柔専 五省」

- 1、礼儀に失する 無かりしか
- 1、精気に欠くる 無かりしか
- 1、信義に悖る 無かりしか
- 1、怯懦に走る 無かりしか
- 1、怠惰に亘る 無かりしか

五省朝夕心に留め反省すべし 自らを律するに厳なる者これを真の勇者と云う

以上を教育理念とし、それをふまえて知識、技、心を鍛え、社会に貢献できる心豊かな品格高い柔道整復師の育成に努めることを目標とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

令和4年度事業計画書より

- ①新型コロナウイルスの感染拡大防止策の徹底
- ②授業改善・補講実施による在校生の学力向上
- ③国家試験対策の強化（学内、学外における模擬試験、補講の実施）
- ④学生募集活動のさらなる拡大と強化（高校・OB訪問、ガイダンス参加）
- ⑤既卒国家試験受験希望者への支援の強化

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが 学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界 のニーズに向けて方向付けられているか	④ 3 2 1

① 取組状況

昨年度に引き続き、学校の理念や目的、人材育成像はパンフレットやホームページ等で公開するとともに、ガイダンス等でも高校生には周知している。特にガイダンス時には、「基礎力」を大事にしているカリキュラムの説明を重点的に実施した。

また、コロナ禍ではあるが、可能な限り学校行事を行い、学生のモチベーションアップを図った。

より質の高い職業教育を行うため、平成 27 年度に職業実践専門課程に認定されている。

教育課程編成委員会にて、業界から望まれている人材像についてアドバイスをを受け、教育に反映させてきた。

② 課題

コロナ禍も収束しつつあり、令和 5 年 5 月には 2 類から 5 類に変更される。しかしながら、また感染が広がる可能性もあるため、感染拡大防止を念頭に置きながら、学生のモチベーションを上げ、学校全体を活性化させていきたい。

③ 今後の改善方策

感染状況を注視しながら学校行事を実施し、学校の理念や目的、人材育成像を直接伝える機会を設ける。

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能されているか	④ 3 2 1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	④ 3 2 1
・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1

① 取組状況

目的に沿った運営方針を策定し、事業計画書も作成している。運営組織や意思決定機能、人事・給与なども規定を整備し、明確化している。

教育活動等に関する情報公開もホームページ上で行っている。

出席・成績管理、経理関係はすべて PC にて管理をしている。

感染状況により、Meet を使用してのオンライン授業を行った。システム上の問題は特になく、スムーズに行うことができた。

教職員の PC の HDD を SSD に交換し高速化を実施した。

② 課題

現在の環境を維持すること。

③ 今後の改善方策

前年度と同様に取り組んでいく。

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や、教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	④ 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

① 取組状況

（公社）宮城県柔道整復師会の役員や、開業している接骨院の先生を交えた教育課程編成委員会を行い、実践的な職業教育、産学連携を図っている。

学科のカリキュラムにおいては、新カリキュラムに対応するため、体系的に編成されており、シラバスも公開している。

教育到達レベルは各教科のシラバスに明記されている。

年度末に全教科において学生アンケートによる授業評価を行っている。

3年次には、(公財)柔道整復研修試験財団による認定実技審査において、外部評価者(他校審査員)を行っている。

成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は学則および成績評価・進級卒業判定基準に明記されている。またGPAによる成績管理を導入している。

関連分野における業界等の連携においては、教員資格を持ちながら開業している柔道整復師を非常勤講師として採用している。

(公社)全国柔道整復学校協会主催の教員研修会が9月18日から2日間、名古屋で実施され、教員3名が参加した。

② 課題

各項目において、適切なレベルにあると思われるが、この状況を引き続き維持・向上していくことが必要不可欠である。

③ 今後の改善方策

計画的に補講を行い、学習時間を確保していく。

学生が能動的に学べるような工夫を考えていく。

関連分野の研修会等に参加し、教員の資質向上に努める。

学内研修の実施

(4) 学習成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・就職率の向上がなされているか	④ 3 2 1
・資格習得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1

① 取組状況

例年全国各地から多くの求人をお願いしている。就職担当の教員がそれらをまとめ、学生に提示するとともに、個別面談を行い、一人一人に合った就職先を紹介している。就職ガイダンスを3年ぶりに実施した。

対面授業をメインとし、感染状況によりオンライン授業を実施した。2年連続国家試験合格率100%を達成し、3年連続100%を目指して教職員が一丸となって国家試験対策を行った。成績不良者には面談を行うとともに、放課後の補講で学力向上に努めた。

しかしながら、10月に発覚した国家試験漏洩問題により出題の傾向が大きく変わった上、不適切問題の指摘も一つも採用されなかったため、合格率は60.9%と低いものとなってしまった。そのような中でも、成績が伸び悩み、卒業も難しかった数名の学生が、

1、2月の補講で大きく伸び、無事国家試験に合格することができた。

学生の様子には気を配り、負担と様子が異なる場合は担任が面談を行い、フォローしている。退学者に関しては、当該年度は年度途中の退学者は例年と比べてかなり少なかった。退学者の多くは進級できずに退学というケースがほとんどである。退学者の総数は例年と比べると減少している。

卒業生には、高等学校の部活動のケアをしている者も多く、その活躍は把握している。また、OB訪問時に卒業生の状況を確認している。

② 課題

例年より減少したとはいえ、退学者がまだまだ多い状態である。学生の学力向上はもちろんのこと、生活指導なども必要と思われる。

③ 今後の改善方策

退学者の多くは学業不振が原因である。学生の自己肯定感を高め、能動的に学習に取り組めるよう、補講等で学習面のフォローを行っていくとともに、退学の予兆が見られる学生には2者面談・3者面談を行い、保護者とともに生活面もフォローしていく。また、学生のモチベーションを上げるような行事も実施していく必要がある。

国家試験対策担当教員による補講で、学校全体の学力の底上げを行っていく。

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④ 3 2 1

① 取組状況

就職支援は個別指導で行っている。

学生の相談の対応は担任や教頭がきめ細やかに行っている。

年に一度の健康診断により、学生の健康管理を行っている。

定期試験の結果は、必ず保護者にも送付している。試験の結果により、三者面談を行い、保護者との連携を行っている。

課外活動はコロナ禍の影響で未実施である。

卒業者にも求人票を開示している。

学生に対する経済支援は、日本学生支援機構の奨学金等で行っている。また、学費の分納も可能にしている。平成 28 年度から入学金の分納も可能にした。

高校内ガイダンスにおける模擬授業なども実施している。

高等教育の修学支援新制度の適用校であり、2022 年度は 15 名の学生が対象となった。

② 課題

経済的に苦しい学生も多く、学費の分納を申し込む学生は増加している。

③ 今後の改善方策

前年度と同様に取り組んでいく。

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

① 取組状況

平成 25 年 2 月に新校舎が完成し、施設設備の整備は問題ないと思われる。

付属接骨院での臨床実習等、教育体制は十分である。

非常食、水を約 100 名分備蓄してある。

ソーシャルディスタンスを確保するため、人数の多いクラスは特別教室など面積の大きい教室で授業を実施した。

コロナ禍で外部での臨床実習は、学内実習に変更した。

各教室におけるネットワークの整備を行い、オンライン授業を実施している。

② 課題

新校舎完成から約 10 年経過しており、細部の点検を行う必要がある。

避難訓練を行い、有事に備える必要がある。

③ 今後の改善方策

複数の教職員で校舎内外の点検・確認を行い、リストアップして改善していく。

今後も様々な災害を想定し、避難訓練を行う。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・学生募集活動は適正に行われているか	④ 3 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

① 取組状況

学生募集活動は適正に行っている。

定期的に高校訪問やOB訪問おこなっているが、コロナ禍のため、当該年度においても少数の訪問にとどめた。

学納金は他校よりも低い金額に設定している。

令和3年度、令和4年度の志願者は50名以上だった。

② 課題

引き続き、50名以上の志願者を確保する。

③ 今後の改善方策

広報活動を強化し、より多くの学生に学校を知ってもらい、来校、出願につなげる。

学生に選んでもらえるよう、教育活動等を向上させる。

広告媒体における工夫。

(8) 財務

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ③ 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

① 取組状況

入学者減少による収入減のため、経費削減に努めている。

予算収支計画は妥当といえる。また、監事および公認会計士による会計監査も適正に行われている。

ホームページにて財務情報の公開を行っている。

② 課題

近年の入学者の減少や中途退学者の増加により、経営基盤は若干不安定である。

③ 今度の改善方策

学生募集活動の強化により、定員充足率の向上を目指す。

教育活動の強化によって中途退学者の減少を目指す。

具体的目標を定め、経費削減に務める。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1
・自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

① 取組状況

法令や専門学校設置基準、柔道整復師学校養成施設指定規則に基づいた適切な運営を行っている。

自己評価および学校関係者評価を行い、その結果をホームページ上で公開している。

② 課題

自己評価や学校関係者評価で指摘された問題点については、積極的に改善してきたが、十分な点もわずかにあった。

③ 今後の改善方策

自己評価、学校関係者評価における改善事項の取り組みの強化。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

① 取組状況

放課後に近隣の清掃等のボランティアを行い、地域に貢献している。

コロナ禍のため、宮城野区柔道協会主催の柔道教室は中止となった。

② 課題

施設を活用した地域貢献や学生のボランティア活動の奨励はほぼ適切といえる。今後も引き続き行っていく必要がある。

③ 今後の改善方策

学生ボランティアの活動状況の把握と指導を行う。

各教育機関や、関連団体、地域を連携し、可能な限り施設の活用を受け入れて社会や地域に貢献し、交流を密にしていく。

(11) 国際交流

この項目においては、国際交流を行っていないため、評価対象外とする